

一問一答方式（文責本人）

### 進化まちづくりが 目指すものとは何か

問

厚労省の調査によれば、県内の人口は2010年対比2040年推計で3割減少し、自治体によっては人口半減の予想が出されている。遠野市が、これから生き残っていくためには、今後どのような行政施策を講じようとしているのか。

答

本市の人口は、昭和35年の5万8千11人をピークに減少傾向にある。平成17年の国勢調査から5年間で2千71人減少した。これを交付税に換算すると、一人当たり年間約15万円が交付されるので、約3億円の収入減少となる。進化まちづくりでは、コミュニティの大

切さが注目されており、特に子育て支援策に一層積極的に取り組むたい。そして、今後の道路網整備等により、交流人口の拡大や経済の活性化が期待されるため、企業誘致や地元企業への支援強化と、タフビジョンの着実な推進による強い農林畜産業づくりに取り組んでいく。

瀧澤 征幸 議員  
(緑風会)



### 学校教育における ラジオ体操の 位置付けとは

問

市内小学校では、学校教育の中にラジオ体操を取り入れている

答

ところが見受けられるが、教育上も、そして生涯にわたる健康づくりにもラジオ体操は重要なものであり、教育の中にラジオ体操を取り入れていくべきではないか。

学習指導要領においてラジオ体操を体育科の中で取り扱うという記載がなく、文部科学省が発行している教師用指導資料も同様である。しかし、ラジオ体操には80年以上の歴史が

その他の質問

- 行政区や自治会の見直しの現状と今後は。
- 中学校再編成後の教育環境等の状況は。

問

東北横断道釜石秋田線等工事が順調に進められている。道路が完成になれば、人や物の流れも大きく変わる。変化に対応した「まちづくり」対策を早急に進めるべきだ。人口定着の方策として、住居環境整備、良好な宅地の供給、雇用の場の確保が必要であり、次の区画整理は新張、八幡地区の実現を望む。市全体の道路ネットワークの一層の整備充実が必要と考えられるが、「都市計画」の見直しに係るマスタープラン策定の取り組み状況は。

### 都市計画マスタープラン 見直し策定及び 市道等の管理は

一括質問方式（文責本人）

市道等の管理は

している。社会環境が大きく変化し、人口や市街地の拡大を前提としたまちづくりから、安心安全な環境の整備といった持続可能な都市づくりに変化している。都市計画マスタープランの見直しは、今年度と来年度の2カ年で先行し、意向調査を実施しながら進める。

問

道路及び水路は、地域住民の暮らしを支える重要な施設である。破損や通行上支障のある箇所の維持補修は良好な状況とは思われない。事故に係る管理責任で損害賠償を負うことがあってはならない。苦情要望があっても対応するのはなく、事前に整備を望むが。



市民サッカー場  
周囲の通学路

### 健康づくり活動の 推進を

問

病気になるらない高齢者を増やし、介護が不要な高齢者を増やしていくことが大事だ。健康づくり活動の推進として、運動習慣の動機付けのためのラジオ体操の実施はどうか。健康寿命を目指すことにもなるが、市職員の職場から実行してみてもいいか。

答

健康寿命の実現のためには、若いうちから積極的に食生活や運動実践などの健康づくりに取り組み、生活習慣を維持していくことが必要である。

菊池 邦夫 議員  
(新興会)

